2016年12月発行　第188号　題字：佐藤　　敬 学長

学園だより

2016年 12月号
Vol.188

Ⅰ 特集 施設紹介
事務局庁舎 2
外国人教師館内弘大カフェ 6
ＣＯＩ研究推進機構 8
Ⅱ 弘前大学総合文化祭 16
Ⅲ 研究室紹介 18
Ⅳ 新任教員自己紹介 21
Ⅴ 海外だより 22
Ⅵ けいじばんコーナー 24
Ⅶ 編集後記 24

作品：Haraheri 2　　制作：教育学部生涯教育課程　芸術文化専攻４年　熊谷　伊吹

Ⅰ特集 施設紹介

事務局庁舎

改修前

改修後

事務局庁舎の改修工事が竣工しました。

改修工事は、平成27年６月から約14ヶ月の期間で行われ、今年８月から供用を開始しました。

事務局庁舎は、昭和47年建設で43年を経過し、文京町団地において新耐震基準を満たさない最後の建物で耐震性が劣っていたため、耐震改修及び機能改善のための内外装改修を行いました。また、改修工事に併せて、バリアフリー化を図り、安全・安心で機能的な環境の整備を行いました。

次頁に整備しました施設等の概要をご紹介します。

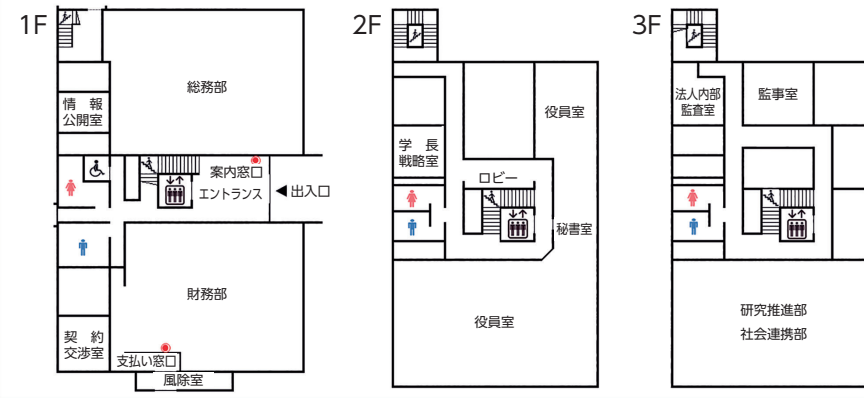
弘前大学正門を入って右手に見える白い（改修前は青い）建物が、事務局庁舎です。

建物を見たことはあるけれど、建物に入ったことがないという方も多いようです。

そんな事務局庁舎に現在どのような部屋があるのかといいますと、学長、理事、監事など役員等の執務室と事務局各部を配置しています。特に、学長の下で戦略的な大学運営が可能となるよう、これまで学内に点在していた理事の執務室を事務局庁舎内に集約しました。併せて、学長、理事の下で機動的な事務の遂行が行われるよう、従来から事務局庁舎内に配置されていた総務部及び財務部に加え、研究推進部及び社会連携部の執務室を新たに配置しました。

また、学長戦略室及び法人内部監査室の学長直属の事務組織についても事務局庁舎内に配置しています。

事務局案内図



地球環境保護対策

事務局庁舎の外壁に外装シェード（縦長のパネル）を設置しました。

これは地球温暖化対策のひとつとして、日射遮蔽を目的に、１階では既存の庇を活用し、２階、３階の建物外壁面外側にコンクリート系パネルを並べ立てる形態の外装シェードを設置することによって、日射の遮蔽を行い熱負荷の低減を図っています。

また、建物の外観色は、キャンパス内の調和を図るため、建物外壁を総合教育棟〈正門左手の建物〉の外壁色（アースカラー）と同色とし、外装シェードと開放的アトリウム（吹抜）外壁部分を創立50周年記念会館の外壁タイル色（オフホワイト）と同色としました。

南側正面外観

東側外観

西側外観

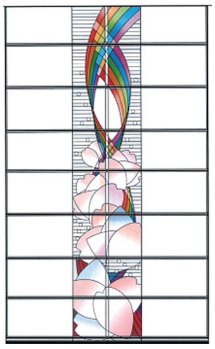
正面玄関

建物外観で特に目を引くのは開放的アトリウム（吹抜）です。

開放的アトリウム（吹抜）は、旧庁舎にあった吹抜をエレベータースペースとして利用したため、正面玄関上部に新たに整備しました。また、開放的アトリウム（吹抜）の上部には、桜の花びらをモチーフにしたステンドグラスが取り付けられ、若者が集う学び舎として明るい活動的なイメージを表現しています。

併せて、その東側外壁には、本学ロゴマークと大型時計を設置しました。

ロゴマークを高い位置に設置し、夜間はライトアップを行うことにより、遠くからでも大学の所在を確認できるようにしています。



ステンドグラスイメージ

ロゴマーク、大型時計

正面玄関内に、案内窓口を新たに設け、来学者の利便性を向上させました。

また、エントランスには、重要無形民俗文化財である「弘前ねぷた」の鏡絵が飾られ、来学者を歓迎しています。

案内窓口

弘前ねぷた

バリアフリー化

旧事務局庁舎の出入口には玄関が雪で埋もれないように段差がありましたが、スロープなどの整備が遅れていたため、お身体の不自由な方にはとても不便な建物となっていました。

改修により、正面出入口は、車寄に傾斜をつけて高くすることで段差を解消し、同時に整備した歩道部分には手すりを設置し、転倒防止を図りました。

さらに、正面玄関を従来の手動ドアから自動ドアへと変更しました。

旧庁舎内では、階の移動は階段のみで、階段の上り下りに不便な思いをされていた方もおられましたが、改修に併せてエレベーターを設置しました。

改修前の建物中央に採光のための吹抜があり、そのスペースを利用できたことによって、後付けにもかかわらず建物内部にエレベーターを設置できたことで、車椅子利用者も移動が楽にできるようになりました。

また、１階にスペースを確保して、多目的トイレを整備しました。

これらの整備により、お身体の不自由な方にも安心してご利用いただけるようになりました。

正面出入口の車寄

エレベーター

多目的トイレ

西側出入口

西側出入口は、スロープを設置することで段差を解消し、手すりも設置しました。さらに、西側玄関も自動ドアとしたことにより、車椅子利用者でも出入りできるようにしました。

西側出入口のスロープ

西側出入口

授業料等の支払い窓口のご案内

事務局庁舎改修工事の竣工に伴い、授業料を含む各種料金の支払い窓口は事務局１階西側に移転しました。

ご用の方は、保健管理センター向かいの西側出入口からお入りください。

窓口対応時間　8：30～17：00（平日）

問い合わせ先　財務部財務管理課
経理グループ（収入担当）

電　　話　0172-39-3043

理事室の集約化

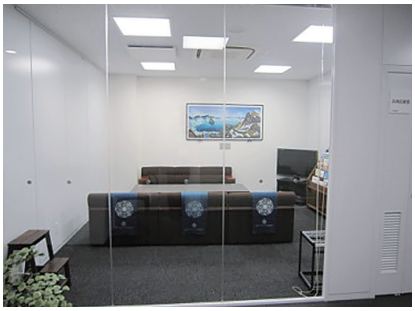
理事の執務室を集約するうえで、間仕切壁にガラスパーテーションを採用したことにより、開放性を確保しました。

また、学長室、理事室の前室にあたる秘書室の壁にもガラスパーテーションを設置したことにより、開放性とアトリウム（吹抜）からの採光性を確保しました。

学長、理事へご用の方は秘書室へお立寄りください。

理 事 室

秘 書 室



共用応接室

学長室

学長室には応接室を整備しました。

応接室では、本学の学生、教職員が学長と直接対話できるように、学長オフィスアワーを実施しています。

どうぞお気軽にお越しください。

● 学長オフィスアワー ●

実 施 日：原則として毎月第１金曜日及び第３木曜日

実施時間：15：00～17：00

なお、実施の詳細につきましては、弘前大学ホームページ「学長オフィスアワー実施のお知らせ」をご確認ください。

学長応接室

災害発生時の体制

事務局２階に学長室、各理事室を集約したことに伴い、緊急時に迅速な対応ができるよう、特別会議室を設けました。

特別会議室は、災害発生など有事の際でも、情報収集や情報伝達ができるように非常電源回路の整備などを行ったことから、災害対策本部としての機能を確保できました。

特別会議室

終わりに

事務局庁舎の改修工事にあたっては、執務室の仮移転や資料・什器類の保管などで、理工学研究科、附属図書館など多くの関係部署にご協力をいただきました。また創立50周年記念会館の利用者へご不便をお掛けしました。

ここに改めて感謝を申し上げます。

Ⅰ特集 施設紹介
外国人教師館内 弘大カフェ

歴史と文化の香りを感じるスペース

弘大カフェ HIRODAI CAFE

弘大カフェ外観

玄関オブジェ

みなさん。弘大カフェをご存じですか？

弘大カフェスタッフ

弘前大学構内の一角にある「旧制弘前高等学校外国人教師館」建物内に有限会社弘前コーヒースクール（地元では「成田専蔵珈琲店」と言えばピンとくる）が出店をしております。

旧制弘前高等学校外国人教師館は、大正14年に旧制弘前高校の外国人教師のための宿舎として建てられた西洋風建築物で、現在、弘前大学に残る旧制弘前高校時代の唯一の建物であり、国の登録有形文化財及び弘前市景観重要建造物となっております。

これまでは、この建物内で旧制弘前高校や太宰治に関する資料等の展示・公開をしてきましたが、平成28年6月19日（日）に、歴史的な遺産を活用し「歴史と文化の香り」が感じられる「弘大カフェ」としてオープンしました。

みなさんも、コーヒーの香りから歴史と文化を感じてみませんか？

弘大カフェ

弘大カフェ スタッフ紹介

成田　専蔵
(有)弘前コーヒースクール
代表取締役

●弘大カフェへの思いを伺います

「学生に本当のコーヒーを味わって欲しい」をテーマとして、大学構内一角の森のような場所にたたずむ外国人教師館。歴史的な時間の経過と空気感、まさにノスタルジックな気分でコーヒーを飲む。足を運ばないと体験できない場所です。

この場所にマッチし、弘前で長い間培った風味あるコーヒーを提供しています。そして、この場所で飲むことにより、より味わいが深くなると思います。

弘大カフェで自分のコーヒーを見つけて欲しい！自分のコーヒーが見つかるかもしれません。

学生さん達と一緒に「コーヒーに興味を持ち、コーヒーの味を深めて『コーヒー文化を形成していきたい』」と思っています。

今後の展開は『この弘大カフェでコーヒー講座を開講したい』と思っています。学生達をコーヒー通人（精通した人）に養成し、地元に戻った時、その地域や社会で力を発揮できる人材を育成したいと考えています。

最後に

『コーヒー文化をこの弘大カフェから仕掛けたい！』

『コーヒーの絆が弘大カフェから生まれる！』

●社長の言葉は一言ひとことに味があり、奥深いですね

松山　貴行　（有）弘前コーヒースクール 弘大カフェ店長

●おすすめのメニューは？

スバリ！「カフェラテ」です。

自社工場で焙煎したカフェラテに合うオリジナルブレンドのコーヒー豆を最高級エスプレッソマシーンで提供しております。何回も試行錯誤を繰り返し（コーヒー豆の種類、抽出時間やミルクの温度、コーヒーとミルクの配分割合等）磨き上げた極上の一品です。

この機会に、当店自慢のカフェラテを味わっていただき、コーヒーに興味をもってください。

コーヒー豆の販売もしており，豆の種類も豊富です。自分に合うコーヒー豆やコーヒーの淹れ方などのアドバイスをいたしますので、気兼ねなくなんなりと聞いてください。

●笑顔が素敵な優しい店長です。美味しいコーヒーの入れ方を聞いてみては？

山本　雅章　（有）弘前コーヒースクール 弘大カフェ店員

●おすすめのメニューは？

おすすめは「エスプレッソ」です。

長年親しまれてきた自社のオリジナルブレンド「スクールマイルド」を使用したエスプレッソです。弘大でしか味わうことのできない、１オンスに凝縮されたスクールマイルドの深い味わいをお楽しみください。

この建物の雰囲気の中で飲むコーヒーは、普段では味わうことができない新たなテイストを感じるはずですよ。さらに、今までに無い非日常的な憩いや寛ぎの場を演出いたします。授業の合間に是非！お越しください。

事前に連絡をいただければ、部屋の貸し切りも可能です。サークル活動等にも利用できますよ。

●ダンディな印象が光ります。ラテアートは必見です。

齊藤　緩菜　（有）弘前コーヒースクール 弘大カフェ店員

●おすすめのメニューは？

おすすめは「チーズケーキ」です。

10 月 22 日から販売を始めました。当店手作りです（私が作っています）。クリームチーズと土台（生地）が合うように何種類ものチーズを試したり、土台にもビスケットを砕きバターを配合するなど、ケーキが完成するまで何回も試行錯誤を繰り返しました。

濃厚なクリームチーズが口に広がりますが土台が絶妙な役割を果たし、クドくなく病みつきになる味に仕上がっています。今後、いろいろなケーキや、フードも豊富にしていきたいと思います。セットメニューも始まりますよ。

あと、「弘大カフェのインスタグラム」を立ち上げているので、ぜひ見に来てください。

●笑顔が素敵で明るい印象です！　自慢のケーキをご賞味あれ

社長の弘大カフェへの思い、そして店員さん達の笑顔がとても印象的でした。
みなさんも、自慢のカフェラテやチーズケーキを堪能し、自分自身の「コーヒー文化」を築いてみてはいかがでしょうか？

弘大カフェの営業について

営業時間	10：00～19：00	電話番号	0172-55-5797
定 休 日	日曜日 （その他、年末年始（12/29 ～ 1/3））	インスタグラム	「hirodaicafe」で検索

弘大カフェ

Ⅰ特集 施設紹介
COIプロジェクト（COI研究推進機構）

健康ビッグデータ活用で「健康長寿社会」実現へ！

認知症・生活習慣病の予兆発見、予防法開発に向けた「革新的健やか力創造拠点」

弘前大学大学院医学研究科社会医学講座　教授
弘前大学COI拠点長（研究統括）
中路　重之

ご挨拶

青森県が日本一の短命県であることは皆さんもご存じのことと思います。

「弘前大学COI拠点」は、この不名誉な短命県という汚名返上を一大目標に掲げ、文部科学省のCOIセンター・オブ・イノベーション創出事業拠点のひとつとして、いま日本中から大きな注目を集めています。大手メディアの取材も相次ぎ、全国的にも話題となっています。

「弘前大学COI研究推進機構」は、本拠点の事務局として先生方や参画機関の研究・社会実装の実行推進を支援させていただいており、弘前大学を中心に結束する産学官民の一層の連携と、イノベーションの創出・発展を目指して活動しております。ここでは本拠点の取り組みやねらいを通じて、COI研究推進機構をご紹介いたします。

施　設　写　真

医学部・基礎研究棟の一角にある、
COI研究推進機構のオフィス

通路には、研究や社会実装の
取り組み事例を多数展示

公式サイト　http://coi.hirosaki-u.ac.jp/web/index.html

「岩木健康増進プロジェクト」発。産学官民による健康づくり社会モデルの開発・展開

国民の４人に１人が高齢者*1という、超高齢社会へ世界に先駆けて突入した日本は、高齢者の占める割合が2025年には約30%、2060年には約40%に達すると予測*2され、医療費の増大や介護の人手不足への対策が急務となっています。

中でも青森県の高齢化率は30%(2014年)と高く、2040年には40%に達するものと予想されています*1。

平均寿命で見ると、青森県は男女ともに全国最下位*3であり、青森県が日本一の短命県から脱出を図るには、県下の産官学民が互いに連携し、健康づくりを自分ゴトとして活動を行う必要があります。

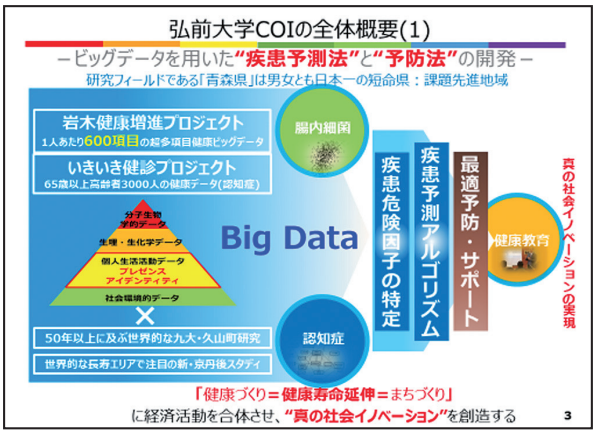
弘前大学では、青森県が平均寿命最下位にあることから、短命県という汚名を返上すべく、医学研究科社会医学講座の中路重之教授が中心となって「岩木健康増進プロジェクト」と題して、弘前大学の医学部を中心に教育学部や理工学部などほぼ全ての学部の先生方や市民のリーダー、学生などと連携して、弘前市岩木地区の住民に対する健康啓発活動を長年続けています。プロジェクトの一環として、2005年から毎年健康調査を実施しており、本年度で12年目を迎えました。

健診には毎年1,000名前後の住民が参加し、同地区の小中学生約500名対象の調査も含めると、健診で得られる住民の健康情報（＝健康ビッグデータ）は、延べ約２万人以上に及びます。

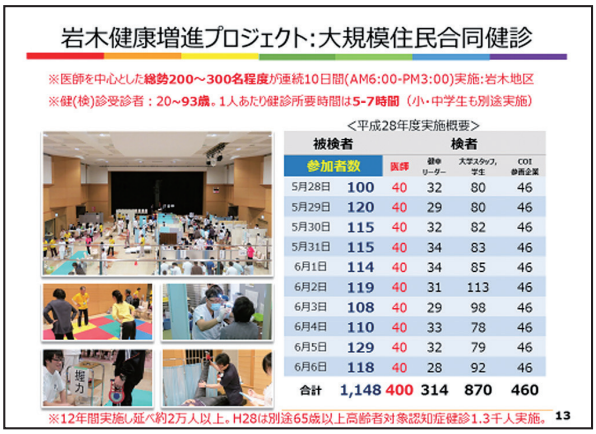
健診項目は 600 以上に及び、体格や体組成に限らず、手間や費用のかかる遺伝子解析、腸内細菌を調べるほか、就寝時間や食事内容、社会・労働環境や生活などにも及びます。この“健康ビッグデータ”を用いることによって、分野の垣根を越えた網羅的な解析が可能となります。住民一人当たりの健診時間は約５時間以上と負担は大きいのですが、本学と住民との厚い信頼関係によって、“健康ビッグデータ”は毎年蓄積されています。

世界的にも珍しいこの健康調査と健康ビッグデータがきっかけとなって、政府の推し進める重要な国家プロジェクト（COIプログラム）に2013年に弘前大学が採択され、弘前大学COI拠点が誕生したのです。

＊1　平成27年版高齢社会白書(内閣府)より
＊2　平成24年度高齢社会白書(内閣府)より
＊3　厚生労働省が5年ごとに発表する平均寿命都道府県ランキングより。青森県の男性は1985年調査から、女性は2000年調査から平均寿命が全国最下位。



「弘前大学COI」の概要

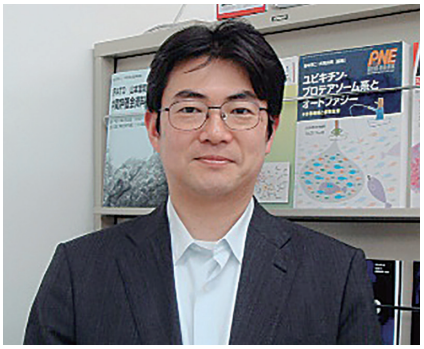


「岩木健康増進プロジェクト」の概要

600項目の「健康ビッグデータ」

大手メディアでも話題

弘前大学COI研究推進機構
教授
機構長補佐（戦略統括）
弘前大学副理事（研究担当）
村下　公一



弘前大学大学院医学研究科分子生体防御学講座
教授
弘前大学COI次世代健康科学イノベーションセンターセンター長
伊東　　健

弘前大学大学院医学研究科社会医学講座
准教授
弘前大学COI次世代健康科学イノベーションセンター副センター長
髙橋　一平

国の大型研究開発プロジェクト「COIセンター・オブ・イノベーション」とは

2013年、日本政府による国家プロジェクト「革新的イノベーション創出プログラム（COIセンター・オブ・イノベーション）」*4がスタートしました。

本事業では目指すべき社会の将来像に向けて、大学や企業・自治体が単独では成し得ない革新的なイノベーションを産学官連携で実現を目指し、そのための社会基盤を整備することを目的としています。

その全国12拠点*5の一つに採択された弘前大学は、「革新的『健やか力』創造拠点（COI）」と銘打ち、岩木健康増進プロジェクトを中心に据えて、生活習慣病や認知症の予兆発見・予防法開発に取り組んでいます。

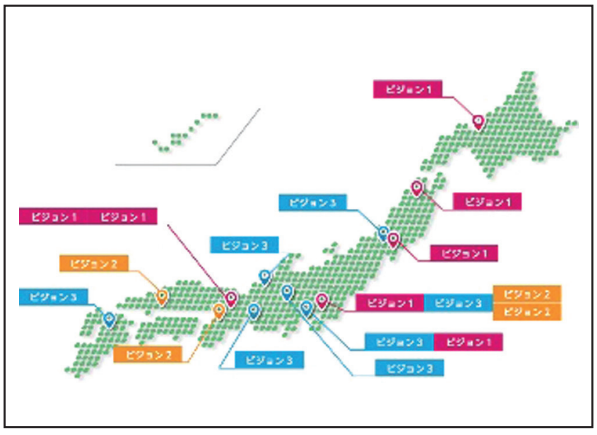
弘前大学COI拠点では、村下教授が戦略統括として参画機関の連携を束ね、花王、ライオン、イオン、カゴメ、エーザイ、楽天、ベネッセ、GEヘルスケアなど有力企業をはじめ、弘前市のマルマンコンピュータサービスや栄研、東北化学薬品など青森県内の企業も多数参画しています。青森県や弘前市など自治体とも一体となって、強固な産学官連携体制を構築しています。

また、認知症発症後の意思決定サポートシステム等の開発をめざす京都府立医科大学や、世界的に知られる久山町研究を率いる九州大学医学部もサテライト拠点として加わり、充実した研究推進体制を構築し、取り組みを行っています。

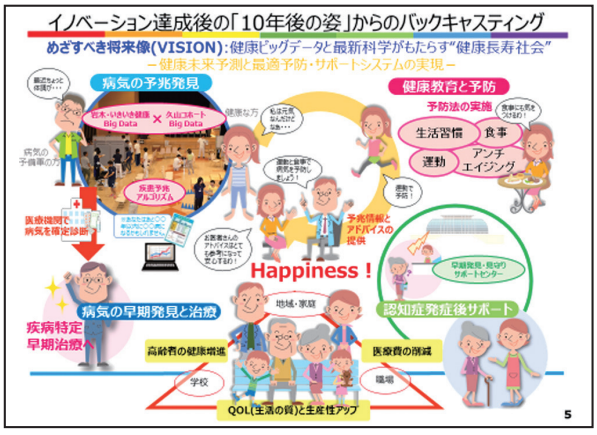
さらに岩木健康増進プロジェクトから得られた健康ビッグデータ解析にも注力し、京都大学や東京大学医科学研究所などから統計解析の専門家も加わって体制を強化し最先端の研究を推進しています。

＊4　文部科学省による研究開発支援事業。
＊5　現在は、全国18拠点。

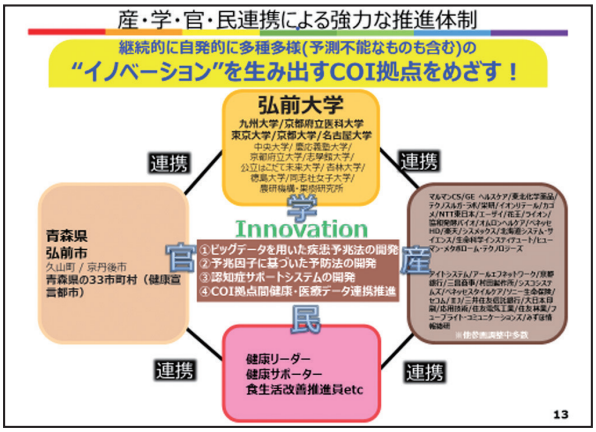
COI STREAM　今の夢。10年後の常識。新しい未来を作りたい。



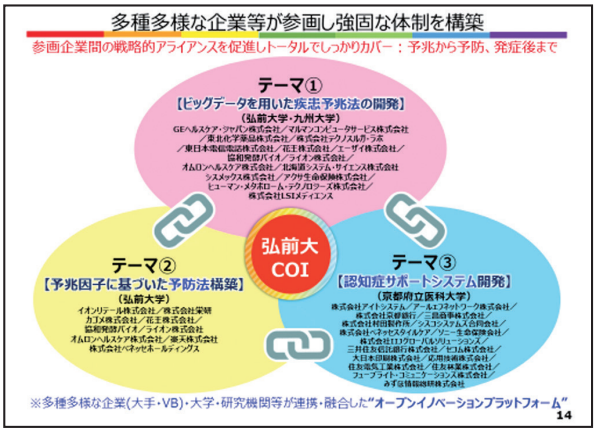
全国のCOI拠点18拠点
旧帝大と並んで採択された弘前大学は、医療健康部門をリードし、全国から視察や参画が相次いでいる。メディアの注目度も高い。



弘前大学COIが描く将来像



弘前大学COIによる【産学官民連携】の強力な体制



オープンイノベーションプラットフォーム

ビッグデータ解析が明かす「動脈硬化指数」「軽度認知障害」の特徴

健康ビッグデータの解析により、「動脈硬化指数（baPWV）」と「軽度認知障害（MCI）」に特徴が見出せてきました。

baPWV（脈波伝播速度）は動脈硬化の検査に使用される値ですが、アルコール摂取量や喫煙本数が baPWV 値と関係することが明らかとなりました。

また MCI とは、認知機能に問題が生じてはいますが、日常生活には支障がない状態であり、この段階で認知機能の低下にいち早く気づき、認知症の予防対策を行うことで症状が発症しにくくなったり、発症する時期を遅らせたりするといわれています。

MCI 患者と健常者との間で健診項目を比較したところ、MCI のリスク因子として乳製品の摂取量や酸化ストレス、最近話題の腸内細菌などの多因子が関係している可能性が示唆されました。

さらに認知症の予兆を発見するアルゴリズムの解析では、収縮期血圧や睡眠の質、食事内容などとの相関も明らかになっており、更なる解析を進めているところです。

「ビッグデータ解析チーム」が加わり、研究を加速中

週１回60分の運動で酸化ストレス軽減の可能性

岩木健康増進プロジェクトでは、住民に対する運動教室を実施しています。住民の継続率は約80％にも及びます。運動教室では健康相談や栄養指導も行い、健康意識を高める内容で構成しています。

本学では、運動教室が参加者の健康に与える影響について、運動教室前後で健康診断を行うことにより、定量的な評価を行いました。すると、週1回60分の運動でも、各種疾患の要因となる酸化ストレスを軽減できる可能性が示唆されました。運動教室後には、参加者の運動時間（運動教室を除く）も大きく増加し、新たな健康増進として十分に期待できます。

また、体操のお兄さんで知られる佐藤弘道氏による親子で実践可能な体操プログラム（親子体操）の開発も行っており、親子体操の実施により母親の抑うつ状態や育児ストレスの改善効果もみられました。親子体操の普及にむけ、指導者養成プログラムも実施中です。

運動教室・親子体操教室の様子

社会実装に向けた戦略展開
「健やか力推進センター」

本拠点では、青森県や各市町村等の地方公共団体、医師会との緊密な連携を図るため、青森県医師会の一部門として“健やか力推進センター”を2015年４月に創設しました。

青森県では、県全体として短命県返上を掲げた動きが作られつつあり、県内全40市町村の85％で首長自らが「健康宣言」を行い、住民の健康を推進しています。

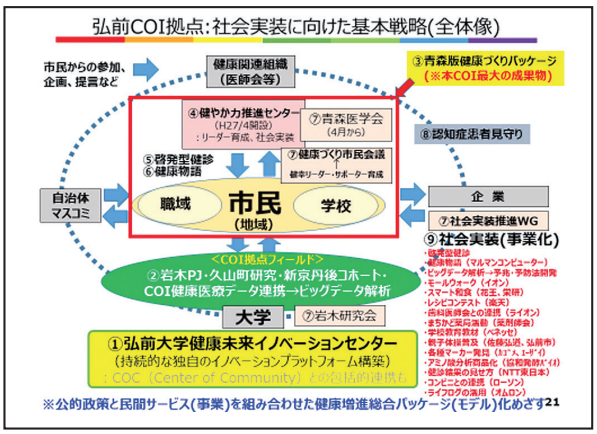
市町村に限らず、職場での健康づくりも盛んに行われています。例えば青森銀行やみちのく銀行では、従業員・地域住民の健康増進へ積極的な支援を掲げ、人間ドック・がん検診の受診率向上、ストレスチェックの実施等のメンタルヘルスケアの推進、健康意識の向上を目指し、健康増進に取り組む事業者を対象とした融資制度の導入など、具体的な施策を積極的に打ち出しています。

北星交通は、タクシー会社としては日本で初めて健康宣言を発表しました。年間目標としてメタボリックシンドローム10％減・喫煙率10％減を目指しています。従業員に対して始業前の血圧・体重チェック、健康体操の実施、定期的な健診などを導入し、今後も継続します。

健やか力推進センターは、職域や地域、学校における健康教育の普及には、人を介した直接的なアプローチが最も有効と考え、健康づくりの人材育成も実施しています。講座では、生活習慣やメタボ・ロコモ、健診、健康に関する講義や、各種測定、健康活動計画の作成など、健康に関連する事項を幅広くかつ体系的に学べるよう工夫しています。

一方弘前市は、本学と連携して住民の健康増進を担う「ひろさき健幸増進リーダー」や「弘前市健康づくりサポーター」を育成しています。認定されたリーダーやサポーターは健康診断支援や運動指導など活躍の場を広げています。

青森県医師会付属の健やか力推進センター



社会実装に向けた基本戦略

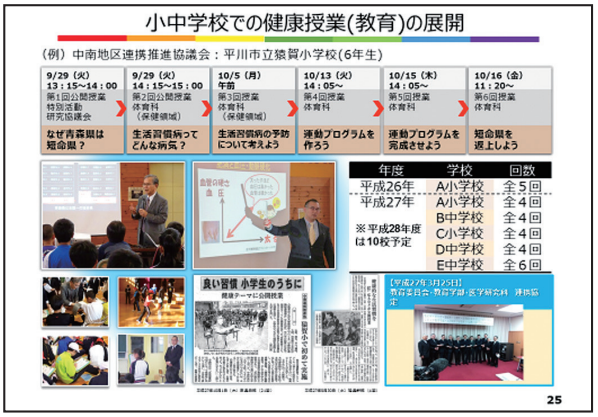
弘前市健幸増進リーダーの育成プログラム

学校も一体となって「健康教育」の取組み

将来的な視点で県民に健康意識を根付かせることを目的に、青森県内の小中学校に本学教員が出向いて、健康に関する授業を積極的に支援しています。

2014年は、黒石市立中郷小学校の６年生約60名を対象とした45分授業を５回実施しました。2015年には、弘前市とその周辺の６市町村の教育委員会と弘前大学（教育学部と医学研究科）が連携協定を結び、平川市の猿賀小学校で同じく6年生を対象に公開授業を開催し、本年度は藤崎町の中学校などで実施することで縦断的な健康の系統教育が普及できるよう進めています。

実際、生徒は積極的に授業で健康知識を吸収し、帰宅後に家庭で健康に関する会話が増え、食事を見直す機会にもなったという感想も多く寄せられています。また本年度、ベネッセが児童・家庭・学校をつなぐ健康教育のツールとしてホームページと動画を制作し、黒石市の小学校で実証実験を開始しました。子どもへの健康教育が県民全体の健康意識の向上へとつながることを切に願っての新しい試みに挑戦しています。



小中学校での健康授業

先進的な社会実装事例①：ヘルシー弁当（花王・栄研）

職場での健康づくりとして、青森銀行を始めとする県内3社の従業員を対象に、カロリーや塩分を抑えた“スマート和食弁当”（花王が考案・監修し、弘前市の栄研が提供）を職場での昼食として従業員の健康増進を図り、さらに花王が食事指導を行い、健康意識の向上にも配慮しました。同時に血圧や内臓脂肪等を測定したところ、３ヵ月後の再測定では、参加者の内臓脂肪の低下や血圧の改善の効果が見られました。

栄研では、本学と共同で健康な食事普及事業に取り組み、塩分控えめで低カロリーのヘルシー弁当「まめしぃ（＝津軽弁で健康、の意）弁当」を開発し、2016 年６月に販売開始。WEB 注文に対応し、食生活改善指導も行う予定です。栄研は本事業によって日本商工会議所青年部主催の第 13 回ビジネスプランコンテストで準グランプリを受賞しています。

花王「スマート和食プログラム」

先進的な社会実装事例②：健康管理ソフト「健康物語」（マルマンコンピュータサービス）

マルマンコンピュータサービスは、企業における従業員の健康管理サポートに着目。日々の生活の中で気軽に健康管理できるソフト「健康物語」を弘前大学と共同で開発しました。食事や運動・血圧・体温・歩数など個人の健康データを計測・記録し、管理画面で健康状態をチェックできます。体操や健康教養についての動画なども盛り込み、健康についての知識を楽しく習得できるように工夫もあり、健康教育に特化した実践的な健康増進ツールとして注目され、2015あおもりITBIZコンペティションで最優秀賞を受賞。従業員個人の健康管理に加え、集団分析機能も装備し、企業や団体等の組織において、健康意識の向上と生産性向上の推進を支えています。

マルマンコンピュータサービス「健康物語」

先進的な社会実装事例③：健康レシピコンテスト（楽天）

楽天が運営するレシピサイト「楽天レシピ」は、月間利用者約 800 万人の、無料で利用できるユーザー投稿型の非常に人気が高いレシピサイトです。2016 年４月、本学と楽天は、レシピを通じて高血圧予防に取り組む「減塩で高血圧予防！３ダウンレシピコンテスト」を開始し、中路重之教授と、著名な料理研究家の浜内 千波氏による監修のもと、油・糖・塩の３つを減らすレシピの普及を、コンテストを通じて推進しています。５か月間で全国から 1,500 レシピが集まり、高血圧は、過度な塩分摂取と肥満が主な原因とされており、毎日の食生活の中で予防に取り組むことも十分に可能です。

単に塩分を減らすレシピでは、味に物足りなさを感じて継続が難しいイメージがあります。本プロジェクトでは、美味しく手軽で医学・料理の専門家の知見を取り入れたレシピを「楽天レシピ」ユーザーとともに開発・提案します。

「楽天レシピ」のWEBページでは、青森県の食材中心に浜内氏が開発したお手本レシピを掲載しているほか、中路教授による「高血圧予防についてもっと知る」を掲載し、健康啓発を促しています。

応募者には抽選で青森県の食材・特産品などをプレゼントし、県産品のPRにも貢献。レシピコンテストは11月まで開催されました。優秀レシピは、2017年に出版予定のレシピ本にも掲載されます。またイオンの協力を得て、2016年11月に優秀レシピが総菜として青森県内イオンで販売されました。

青森県内イオンで総菜として販売

楽天「3ダウンレシピコンテスト」を通じて
健康な食事の普及へ

先進的な社会実装事例④：モールウォーク（イオン）

イオンは、本学と青森県などと連携し、2014年10月から屋外での運動が困難になる冬場の運動不足解消を目指し、天候にかかわらずウォーキングできるイオンモール内を活用した継続的な「モールウォーク」を推奨しています。

参加者の意欲や健康意識を高めるため、歩数に応じて健康ポイントの付与や、血圧、骨密度、体組成の定期的な測定会を実施。体組成の測定では花王の知見を活かして連携し、内臓脂肪の測定によって健康データを充実させています。

健康ポイントや測定結果の記録には、イオンの電子マネー「WAON」を利用し、参加者自身が健康増進を実感でき、運動の習慣化を促進。WAONのデータを活用し、参加者の健康状態と購買活動との関係についても分析を進めています。

モールウォークの取組みは全国のイオンにも拡大展開し、健康なまちづくりに貢献しています。

モールウォーキングや健康測定会とともに
健康ポイントセレモニーを16年11月に開催した。

全国に拡大中。イオン「モールウォーク」

COIで実現する「地域健康増進モデル」を世界展開へ

2013年度にスタートした弘前大学COI事業は最長９年間の大型プロジェクトです。この夏に行われたCOI本部による中間評価では、医療健康分野（ビジョン１）で唯一のＳ評価（最高評価）を得ることができました。今後は“健康ビッグデータ”の本格的解析による生活習慣病や認知症の予兆発見や予防法の開発を参画企業とともにさらに加速させ、開発した予兆発見法や予防法の実用化、実証実験にも着手する予定です。

事業の進展とともに参画機関は飛躍的に増大し、当初6社が現在は40以上に達し、現在もさらに拡大中です。情報発信にも注力し、今年で２回目となる「弘前大学COIヘルシーエイジングイノベーションフォーラム」を９月に東京で開催し、本学の佐藤学長や青森県の三村知事など、本学COIに参画する産学官民のトップリーダーが登壇して取り組みや研究について発表を行いました。当日は荒天にもかかわらず、企業や大学、メディア関係者など約700名が来場して満席・立ち見となり、大きな話題となりました。この10月に東京ビッグサイトで開催された「デジタルヘルスDAYS2016」にも出展したところ弘前大学COIを目当てに参加する方が非常に多く、連日大盛況となり新たなネットワーク作りやPRに貢献しました。2017年1月には、今回で３回目を迎える「弘前大学COIヘルシーエイジング・イノベーションサミット2017」を弘前市で開催いたします。

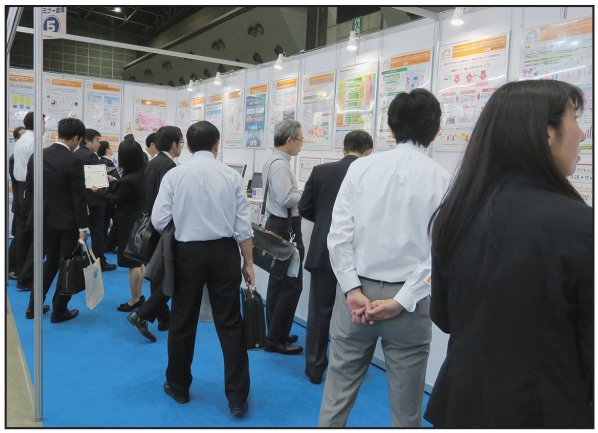
最近は、青森県全体で短命県返上の動きが活発化し、県内の職場や県民の健康意識も徐々に高まり、県全体での機運が高まっています。本COI拠点は、健康ビッグデータの解析と健康教育により、県民・国民の健康寿命を向上する真の「寿命革命」を目指しています。高齢者がいきいきと健やかに暮らせるような健康長寿社会の実現こそが、本拠点の目指す10年後の豊かな未来社会像であり、産学官民一体となった本拠点の取り組みは、各方面に様々な反響を呼んでいます。この取り組みが、青森に限らず超高齢化に直面する国内、さらにはアジアを始めとする海外にも波及し、弘前大学発の社会モデルとして確立・展開していきたいと考えています。

このようなCOIでの取り組みが活かされ、いつの日か青森県が短命県を脱し、その成功が日本人の長寿に貢献することを願ってやみません。

2016年9月開催、弘前大学COIヘルシーエイジング
イノベーションフォーラム。
ビッグデータや認知症、健康教育などのキーワードに注目が集まった。

ライオンの濱社長もご登壇！
「弘前大学COIヘルシーエイジング・イノベーションサミット2017」
（平成29年1月27日開催）

デジタルヘルスDAYS2016で講演する村下教授。
会場は立ち見が続出して、メディアでの紹介も相次いだ。



デジタルヘルスDAYS2016会場の様子

II 第16回 弘前大学総合文化祭

毎年恒例の弘大祭ですが、今年は10月21日(金)～23日(日)の３日間の開催でした。ここをお読みのみなさんはいかがお過ごしでしたか？当日は風が強く、寒さの厳しい中での開催となりましたが、雨や暴風等はなく、屋外出店・ステージイベント共に予定通りの実施となりました。温かいものが食べたい気分になりましたね。昨年度はとても日差しが強く、暖かかったため、前回との違いに戸惑う方も多かったかもしれません。

今年度で、弘大祭としては 67 回目、弘前大学総合文化祭としては 16 回目の開催を迎えました。私たち弘前大学学祭本部実行委員会は、各学部祭実行委員会や教職員と協力して、弘大祭の運営に当たっています。弘大祭の特徴の一つとして、教職員、学生が一体となって様々な企画を行っていることが挙げられます。部活やサークルの模擬店と、学術的な講演・体験とを、同日に実施するという、規模の大きな文化祭です。今年の来場者数は 10,800 人と、昨年度と比べても大変多くの方にご来場いただき、大盛況に終わりました。

今年度の弘前大学総合文化祭のテーマは、“It's HIRO TIME”でした。弘前大学の“HIRO”と、英雄・主人公という意味の英単語“HERO”が掛けてられていて、学生一人一人が主人公（ヒーロー）として活躍したいという思い、地域との交流を通して、弘前大学自体が街を盛り上げる勇士（ヒーロー）になりたいという思いが込められています。近隣住民を始め、弘前市に住むたくさんの方々の快いご協力があって達成できたテーマでした。弘前大学学祭本部実行委員会でも、このテーマを取り入れつつ、３日間を通して様々なイベントを開催しました。

１日目は、弘大祭の開祭を宣言する、“Opening Festival”で幕を開けました。佐藤学長、山本副市長、各学部祭実行委員長を始め、多くの方にご出席いただき、今年も無事開祭を迎えることができました。その後もステージでは、“部活・サークル対抗戦”、“BINGO大会”、“Performance Show”と、来場者と出場者が一体となって楽しめるイベントを実施しました。

毎年大人気の“よさこい弘大”、“スペシャルゲストショー in HIRODAI”は２日目のイベントでした。“よさこい弘大”では弘前大学よさこいサークルに加え、外部から 10 団体を招致し、とても迫力のある演舞を披露していただきました。“スペシャルゲストショー in HIRODAI”では、女優ののん (本名：能年玲奈) さんがお越しになりました。のんさん本人の、東北に対する強い思いがあったからこそ実現できた企画です。毎年お笑い芸人をお呼びしていたので、トークショーは初めての試みとなりました。大学会館広場ステージは、のんさん本人の人気もあいまって、例年にない盛り上がりを見せましたが、教職員と警備会社の方のご協力のおかげで、なんとか無事に終えることができました。

３日目の“学生vs教職員”では、学生2チーム、教職員１チームに加え、なんとスペシャルゲストとして佐藤学長にご出場いただきました。教職員や学長の新たな一面が垣間見える、とても楽しいイベントでした。

今年で4回目の“ミスター＆ミス弘大コンテスト2016”は、３日間通しての開催でした。候補者数が昨年度より多く、他の投票型イベントと比べてもたくさんの投票数を誇る、とても注目度の高いイベントでした。

長いようで短かった弘大祭の３日間は、最後のステージイベントである“Final Festival”と、文京町グラウンドで打ち上げた花火で幕を下ろしました。日が沈み始め、だんだんと寒さが増す中、ステージに登壇する学生、教職員、外部の企業の方を見て、多くの方々の協力があったからこその開催であったことを、しみじみと感じました。

最後になりましたが、今年の弘前大学総合文化祭を開催するにあたり、本学の教職員や学生、地域の方々、企業の方々、出店団体の皆様など数えきれないほど多くの方々にご協力いただきました。私たち学祭本部実行委員会は、これらの方々のご協力なくては、弘大祭の企画・運営に向けて尽力することができませんでした。学祭本部員を代表して心より厚く御礼申し上げます。

大学院保健学研究科
放射線生体影響研究グループ

講師　千葉　満（生体検査科学領域）
講師　門前　暁（放射線技術科学領域）
教授　細川洋一郎（放射線技術科学領域）

写真１．放射線生体影響研究グループメンバー（平成28年度）

Ⅰ．はじめに

私たちは大学院保健学研究科の放射線技術科学領域あるいは生体検査科学領域に所属しており、主に放射線被ばくによる哺乳動物の生体影響研究やがん放射線治療のための基礎生物研究に取り組んでいます。私たちは平成25～27年度に「弘前大学若手機関研究」の支援を受けて様々な成果を上げることができましたので、研究内容の一部とともに研究室の紹介をさせていただきます。

Ⅱ．研究室紹介

弘前大学大学院保健学研究科は看護学領域、放射線技術科学領域、生体検査科学領域、総合リハビリテーション科学領域から構成されています。私たちは放射線技術科学領域あるいは生体検査科学領域に所属しており、博士後期課程および博士前期課程の大学院生、医学部保健学科の放射線技術科学専攻や検査技術科学専攻の４年次学部生の研究指導をしています。大学院保健学研究科は大講座制のため各教員で別々の研究室となりますが、研究の内容によってそれぞれグループを作り、それぞれの専門的立場から協力して研究を進めています。千葉研究室には学部生２名が在籍しており、主に放射線被ばくによるバイオマーカーの研究を行っております。門前研究室の４名の学部生は被ばくによる骨髄細胞の変化及び放射線誘発白血病の研究をメインテーマとしています。細川研究室の生物研究を行っている２名の大学院生（博士前期課程）はがんの放射線治療におけるヒアルロン酸の影響に関する研究に従事しています。また、細川研究室出身の嵯峨涼が今年度10月より放射線技術科学領域の助教として着任しており、グループ全体で４名の教員と８名の学生で研究を行っています（写真１）。以上の３研究室は週に一度集まり、論文抄読会や研究進行状況の報告を含む意見交換会を実施しています（写真２）。

Ⅲ．研究紹介

＜千葉研究室＞

執筆者の千葉は平成 22 年度に大学院保健学研究科に着任し、今年度で研究室を主宰して７年目となりました。その間に保健学科・検査技術科学専攻の 14 名の卒業研究に携わってきま

写真２．研究室セミナーの様子

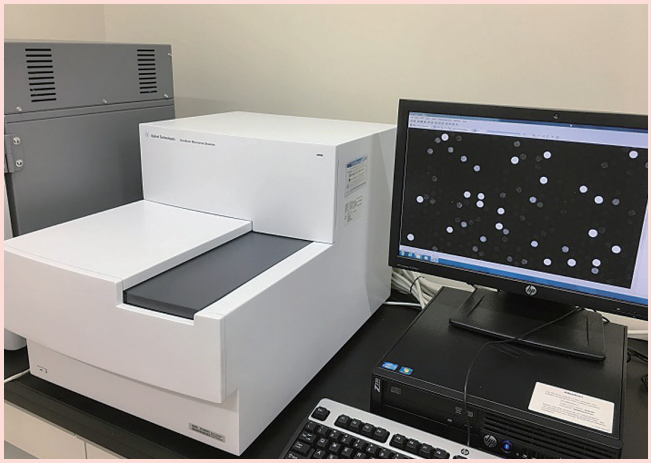


写真３．マイクロアレイ解析による
血清中放射線被ばくバイオマーカーの探索の様子

した。私はこの７年間で一貫して細胞外小胞の研究を行ってきました。細胞外小胞とは、細胞から分泌される 100 ナノメートル程度の小さな膜小胞のことで、内部に細胞由来の小さなリボ核酸（マイクロ RNA など）やタンパク質が存在することが知られています。この細胞外小胞は様々な体液中に存在することから、体液中マイクロ RNA などの成分を詳細に分析することで疾患の早期発見につながると期待されています。私は研究代表者として「弘前大学若手機関研究（平成 25 ～ 27 年度)」に採択され、門前研究室と細川研究室の協力のもと、マイクロアレイ解析による放射線被ばくバイオマーカーの網羅的探索と検出条件の検討を行ってきました（写真３)。その成果として、致死線量の放射線被ばくによって血液中で増加するマイクロ RNA を同定し、数マイクロリットルの血清で診断可能であることが確認できました。この成果について今年度研究室に在籍している検査技術科学専攻４年の柏木悠里と山田直が第 11 回日本臨床検査学教育学会で発表し、優秀発表賞を受賞しました。今後は、さらに低い線量の被ばくを評価できるバイオマーカーの探索や簡易検出法の開発などを行っていきたいと考えています。

また、本研究室では最新の分子生物学的技術を積極的に導入しています。数年後ノーベル賞受賞が確実といわれているゲノム編集技術 CRISPR/Cas9 によって容易にノックアウト細胞の作製が可能となり（写真４, ５)、私たちは本技術を使用してマイクロ RNA の細胞外分泌メカニズムの解明や放射線感受性因子の探索にも応用しています。得られた成果は積極的に国際学会や論文へ発表していきたいと思っています。

＜門前研究室＞

今年度、講師へ着任した門前は、４名の学部卒業研究生（高坂望美、多和田侑介、森野友貴、山屋大樹）を迎えて新しい研究室としてスタートしつつ、本グループの一部として活動しております。これまで、生体内の血液細胞に対する放射線影響について分子生物レベルで解析を進めてきました。現在は特に、「急性放射線骨髄障害からの救命に関する研究」と「放射線誘発白血病の発症メカニズムに関する研究」を進めております。本研究室ではまた、技術交流

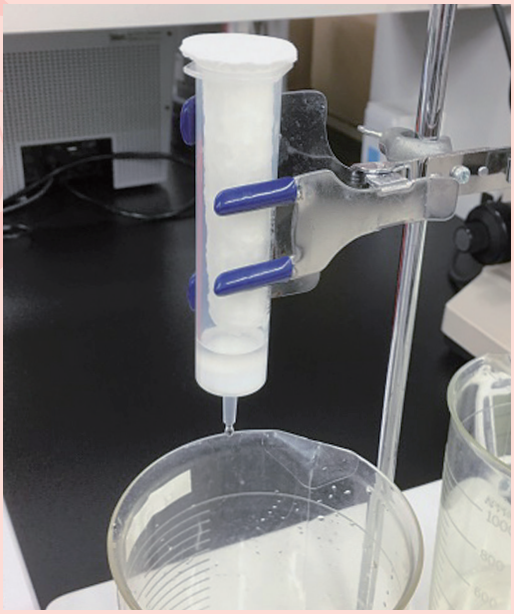


写真４．CRISPR/Cas9プラスミドを
精製している様子

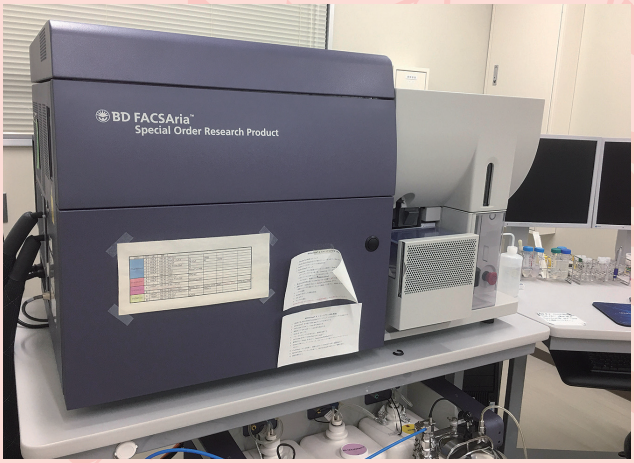


写真５．FACS Aria（BD社）にて
遺伝子導入の確認とソーティングを行っている

及び研究遂行を加速させるため、理工学研究科・萩原准教授、医学研究科・多田羅助教及びストックホルム大学の放射線防護研究センターのWojcik教授らと共通の共同研究テーマを持って外部資金申請を積極的に実施しております。放射線安全・防護の新たな知見を見出すために日々研究に取り組んでおり、少しでも社会に還元できる情報を提供していければと考えております。

＜細川研究室＞

本研究室は今年度10月より着任しました嵯峨涼助教とともに、大学院生の上野達也と村田晃祥が中心となって放射線治療に関する基礎研究を行っています。メインテーマとして、４－メチルウンベリフェロンと放射線照射の併用によるがん浸潤・転移への影響と分子メカニズム解明の研究を行っています。この成果は嵯峨助教が昨年の15th International Congress of Radiation Research (ICRR2015)で優秀発表賞を受賞し、国際的に高く評価されました。

放射線治療における物理的線量計算は、国内の他欧米でかなり高精度なレベルまで局所照射が可能となっている一方で、放射線に対するがん細胞側の応答にはまだまだ未知な部分が多いと言われています。がん細胞の生物学的特性をつかむことで、放射線物理学的にがん細胞を効率的に死滅させることができると考えています。国内で３人に１人ががんで死亡する現代、がんと闘うため、その細胞応答における基礎的研究は大変重要となっております。

Ⅳ．おわりに

我々の研究グループは平成28年度から本格的に合同で研究を開始しており、少しずつ成果が出できました。引き続き日々研究に取り組み、そして発見の喜びを感じながら国際レベルで前に進んでいきたいと思います。もしご興味のある方がいらっしゃいましたら、いつでもグループに参加することは大歓迎です。今後ともご支援・ご指導よろしくお願い申し上げます。

Ⅳ

新任教員自己紹介

教育学部

講　師　**原　　郁水**

10月から弘前大学教育学部教育保健講座に着任いたしました、原郁水（はらいくみ）です。学校保健、保健教育を専門にしています。変化の激しい現代においては、困難に直面しても回復できるそんな力を育てる必要があると考え、研究を行っています。初めての東北地方ですが、食べ物がおいしく、歴史や文化を肌で感じることができるこの弘前で様々なことに取り組んで行きたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

保健学研究科

教　授　**高橋　康幸**

平成28年９月１日付けで保健学研究科放射線技術科学領域に着任いたしました。専門は核医学検査で、診療放射線技師として10年ほど病院で検査や研究を行い、また３年ほど行政にて広島原爆関連や原子力防災対策の被ばく医療に従事してきました。なお、直近の10年は教員として勤めてまいりましたが、それぞれの分野における知識は、患者さんや学生さんなどから多くのことを学ばせていただき積み重ね、それらをフィードバックすることで更なる向上に努めてまいります。どうぞ宜しくお願いいたします。

農学生命科学部

准教授　**成田　拓未**

生まれ青森五所川原、本学人文学部経済学科卒業、同農学研究科修了、岩手大学大学院連合農学研究科（弘前大学配属）修了、平成22年７月から23年10月30日まで弘前大学特別研究員、地域と本学に育てられ、平成28年５月1日、教員として着任しました。専門はりんごの流通問題です。地域と本学に恩返しすべく、精進してまいりたいと存じます。ご指導の方、何卒よろしくお願い致します。

農学生命科学部

助　教　**田中　克典**

本学の人文社会科学部を経て、10月１日付で農学生命科学部に着任しました。専門は植物育種学です。現生作物や考古資料を対象にして起源の解明や作物育種への利用を進めてきました。青森はイネを含む様々な農作物が生産され大都市に供給している重要な生産拠点です。これまでの研究で培った人間関係と技術を生かしつつ、生産現場で抱えている課題に対して産学一体で取組むことができればと考えています。よろしくお願いいたします。

COI研究推進機構

講　師　**松田　貴意**

７月にCOI研究推進機構に着任しました。着任前は理化学研究所でタンパク質の機能解析、立体構造解析を行っておりました。社会医学講座が中心となって展開している活動に興味があり、畑違いの分野に飛び込みました。まだまだ身につけねばならないことばかりではありますが、弘前大学が世界有数の健康づくり拠点となるように、精一杯COIの活動に取り組んで参ります。どうぞよろしくお願い致します。

Ⅴ 海外だより

学校帰りに先生のおすすめのアイスクリーム屋さんに行った時の写真です。（右から２番目）

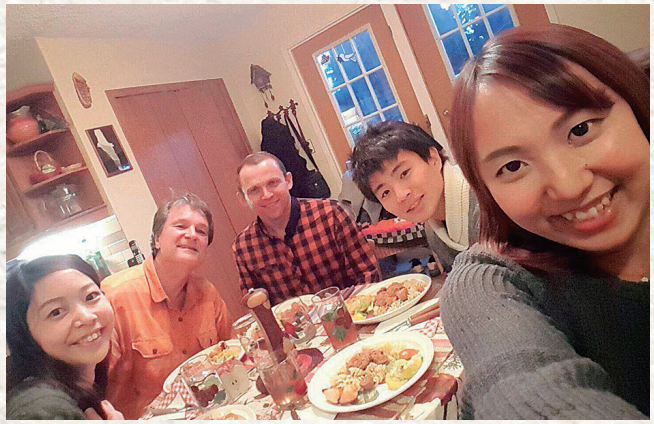
人文学部経済経営課程３年
西村　咲耶

私は現在カナダ、カルガリーにあるマウントロイヤル大学に交換留学生として12カ月間の予定で通っています。私がカルガリーを選んだのはたくさん理由がある中でも特に、できるだけ長く安く留学できることと穏やかで治安が良い点が魅力的だったからです。カルガリーはカナダの南西部に位置する山に囲まれた自然豊かな都市で、世界各地から住みやすいと注目を集める都市でもあります。私はカルガリーに住み始めて半年が経ちますが、今後留学を考えている方や海外へ行こうと考えている方に少しでも参考になるよう、私の生活やカルガリーについて紹介していきたいと思います。

カルガリーの気候は一年中乾燥し、冷涼であるため夏は日本でのじめじめとした暑さを忘れてしまうほど快適なものでした。更に、夏の日照時間もかなり長く夜は11時頃まで明るいので、ついつい外で遊びすぎてしまい寝不足になることもありました。世界の至る所から移民として人が押し寄せ、町へ行くとアジア系移民の他にも中東系やアフリカ系、スパニッシュ系など多くの人と出会うことができます。出生率の低下から国として移民を受け入れていた背景からか人種間差別もほとんどなく、国民がごく自然に移民を受け入れていると感じました。実際にカルガリーで出会う人は皆フレンドリーでバスの運転手も乗客と友達のように会話を楽しみ、道行く人たちは互いに声を掛け合って歩いています。

一方、冬の寒さは格別で10月の今でも氷点下で雪の降る日もしばしばあり、夕方には外は真っ暗になります。治安がいいとされるカナダでも街に出るとホームレスからお金を求められたり、汚い言葉で怒鳴られたりすることもあるので注意が必要です。また彼らは日本のホームレスとは違いドラッグ、アルコール依存者が多くみられ、グループで街を徘徊しているので絶対に日本と同じ気持ちで街を歩かないように常に気を付けています。

経験するすべてのことが日本とは異なっていて、人生の中で最高の刺激になっていると思います。私はESLという英語を第二言語として扱う、大学付属の語学学校に通っています。私の通う大学では全てのスキルを1つのレベルとして扱っているので、同じクラスメイトと3カ月間学ぶことになります。クラスには出身国も年齢もバックグラウンドも全く違う生徒が集まるので、カナダだけでなく他のあらゆる国の文化や思想を学ぶことができる点が新鮮で楽しいです。



ホームパーティーの様子です。（一番左）

春セメスターのクラスメイトです。（後列右から３番目）

カルガリー近くのバンフの風景、７月ごろ。

LGBTのパレード、
規模も関心も日本より大きく思えます。

Thanksgiving　パーティーでのごちそうです。
初めて七面鳥を食べました！とても大きかったです。

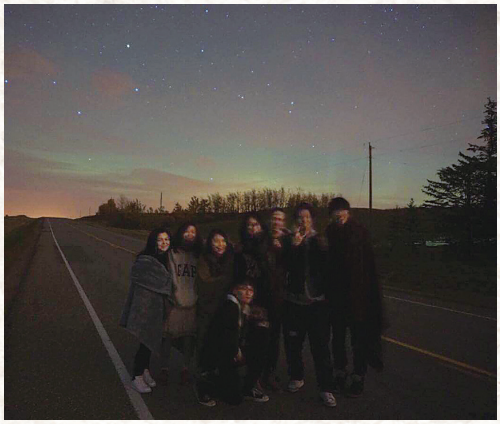
学校以外の生活では、思い描いているだけでは何も叶いませんでした。やはり自分からの行動が重要になってくると思います。私は日本で子どもに関わるサークルに入っていたので、春には日系人の会館へ行って子育てサークルのボランティアを、秋からは教会でキッズクラスのボランティアをしています。異国でもこうして子どもに関わることをやめられなかったということは、飽き性で特技も将来したいこともない私にとってはこれから先も大事にしていきたいことの一つであると気が付くこともできました。このように英語以外にも学べることがたくさんある点も留学の醍醐味なのではないかと思っています。

私は来た当初は学校にある寮に住んでいたのですが、実はカナダに着いたときにはまだ決まっていない状態でした。知り合いの方に助けていただいて何とかなったのですが、こうした仕事に対する緩い態度はいい点も悪い点もカナダの文化として割り切ることにしました。このほかにもトラブルは相次ぎ、精神的な疲労も大きかったのですが、何度も自分で交渉し要求を通したことは大きな自信になりました。現在のステイ先は日系カナディアンの家族が住む家で、ホームステイとシェアハウスの間のような感じです。英語を家で使う機会も増えましたし、何より金銭面での負担が半分以下になったのでとても満足しています。お米や調味料を使えたり、買い物や観光に連れて行ってくれたり、パーティーをしてくれたりと最高に自分の生活とカナダの生活をミックスできていると感じています。

何度も日本に帰りたいと思うことも、上手くいかないことも沢山あります。元々海外が好きで留学するといつも心のどこかで思い描いていました。ですが、中学から学んできた英語はいつも散々の成績で思うような形にはならず、親にもため息をつかれるくらい苦手な教科でした。大学でも英語力は周りの留学希望者の足元にも及ばず、当然カナダでも思うような結果が出なかったです。留学するまでもしてからも不安や悩みは尽きません。しかし自分より上のレベルに行って自分を追い込むように色んなことを始める中で成長できることも発見できることも少しずつですが沢山ありました。今では結果ばかりを求めることもなく、留学の先の事にも自分自身を見つめながら考えられています。金銭面でもギリギリの留学となりましたが日本で死にもの狂いで働けば何とかなりました。家族も友達も国際教育センターの教員の方々も多くの応援や支援、サポートをしてくれるので自分自身の踏み出す一歩が重要だと思います。

長々と書いてきましたが、留学にたくさんの刺激を受けられる最高の場になると思うので皆さんも是非体験してみてください！きっと自分の世界を大きく広げられる一つのきっかけになると思います。読んでいただいた皆さんが少しでも留学に興味を持っていただければ幸いです。周囲の方々の応援や支援、サポートに心から感謝して残りの留学生活も実りあるものにしたいと思っております。拙い文章でしたが最後まで読んでいただいてありがとうございました。

郊外からダウンタウンを眺めたもので、
８月中旬のカルガリーです。



オーロラは弱かったですが、
星がとてもきれいでした。（左から２番目）

９月初旬の公園の様子です。
肌寒く、紅葉がきれいです。

Ⅵ けいじばんコーナー

弘前大学「教育に関する表彰式」を実施

去る８月５日（金）、「教育に関して優れた業績を上げた教員」の表彰式を、総合教育棟２階大会議室において、引き続き「優秀な成績を修めた学生」の表彰式を、同１階共用会議室において行いました。

表彰式には、各学部等から推薦された教員５名中４名、学生26名中18名が出席し、伊藤教育担当理事・副学長をはじめ各学部長及び研究科長が見守る中、佐藤学長から一人ひとりに表彰状と副賞が贈呈されました。

また、学長から祝辞とともに今後の活躍を期待する旨の励ましの言葉があり、これを受けて、教員を代表して理工学研究科小菅正裕教授から、学生を代表して教育学部２年の森優希さんから謝辞とこれからの飛躍を誓う決意が述べられました。

平成28年度東北地区大学体育大会を開催

平成28年度東北地区大学体育大会は、東北地区大学体育連盟加盟の47大学が参加して、６月10日～11月６日の日程で14の競技種目が開催されました。

弘前大学では、ソフトテニス（６月27日～30日）が青森市新青森県新総合運動公園テニスコートで13大学137名、剣道（７月10日）が弘前市青森県武道館主競技場で15大学162名の参加を得て、主管大学として開催しました。どちらの競技とも、各競技場で熱戦が繰り広げられました。

編集後記

今年は学部再編や庁舎改修、大型プロジェクト推進など、賑やかな学内であった。青森県の重要な課題である健康寿命の増進に向けた本学の取り組みが大きく展開しており、様々な研究成果が発信されている。大学の活動が地域にどのように貢献できるかが問われる時代であり、多くの教職員が忙しい日々を送る。そのような中でも、学生達がはつらつと活動し、各種イベントが地域の方々を巻き込んで盛況に開催されている様子を見ると、非常に心強く感じる。桜からねぷた、紅葉に至る活気ある時期を各人が楽しく過ごせていれば何よりである。

さて、そんな津軽の“熱い”季節もあっという間に終わってしまう。今年は雪の便りが早く、寒地であることを思い出させる。最近、ちょっとした学内の付き合いが広がり、雪害対策の研究を進めることになった。雪はどのように降り積もり、何故なかなか融けてくれないのか。現象の多くは「科学」で説明できるが、社会として解決できる問題は少ない。きっと今年も多大な労力を除雪についやすのだろう。それでも雪について知ろうと思えば思うほど、学びの季節はあっという間に過ぎていく。「冬が待ち遠しい」そう感じられる幸せは、大学人のひとつの特権なのかもしれない。

理工学研究科　藤﨑和弘

2015年～2016年
弘大生の病気・事故等による給付補償金は 3496.5万円 でした。

この一年は延べ437名の弘前大学生が病気や事故、盗難などのアクシデントに見舞われ、加入している共済あるいは保険から補償されています。

その内容を、大学生協の学生総合共済（以下生協共済）と学生教育研究災害傷害保険（以下学研災）の給付実績をもとにまとめました。※学研災は生協が大学より業務委託を受けて事務を代行しています

【2015年11月～2016年10月の給付件数と給付金額】

項目	生協共済		学研災	合計	
	給付件数	昨年比	給付件数	給付件数	給付金額
病気入院・手術	101件	+23	0件	101件	876万円
事故入院・手術	51件	▲3	0件	51件	378万円
事故通院・固定具	237件	▲5	2件	239件	919万円
後遺障害	2件	+2	0件	2件	660万円
本人死亡	1件	+1	0件	1件	200万円
盗難・借家人等賠償等	8件	▲3	0件	8件	33.5万円
扶養者死亡・見舞金	35件	+11	0件	35件	430万円
合計	435件	+26	2件	437件	3496.5万円

弘大生のほぼ9割が、学生総合共済に加入しています

●弘前大学生協からのお願いです

自分の回りの友達などで入院をしたり、けがをしたりした方がいたら、「共済の相談いった？」と声をかけてあげてください。

●給付の申請手続きは生協店舗で簡単にできます

なんといっても共済の良さは、「学内で簡単に手続きができる」ところです。入院や、けがなどをしたらまずは、生協店舗に気軽に相談に来て下さい！

（※申請時に診療の領収証が必要になりますので、必ず保管しておいてください。）

【学生総合共済窓口店舗】

（文京地区）SHAREA たび shop　tel0172-37-6480

（本町地区）生協医学店 FERIO/Clover　tel0172-35-3275

今年度の共済給付の特徴

・日常生活中、スポーツ中の手足指などの骨折のケガが多くみられました。

・ストレスが原因とみられる消化器系をはじめとする病気入院の事例が複数ありました。

・泌尿器・生殖器系の病気が多く見られました。大学の健康診断で発見されるケースも多く、健康診断を受けることの大切さがわかります

●SHAREA入口に設置されている給付ボードで、毎月の特徴的な病気・事故や給付内容を掲示し、予防を呼びかけています。ボードは生協学生委員会が中心となって毎月作成しています。ぜひご覧ください。

弘前大学生活協同組合

弘前大学

学園だより

Vol.188　2016年12月発行

国立大学法人 弘前大学「学園だより」
編集委員会

委員長　飯島裕胤（教育委員会）
委　員　加藤恵吉（人文社会科学部）
　　塚本悦雄（教育学部）
　　浅野義哉（医学研究科）
　　千葉　満（保健学研究科）
　　藤﨑和弘（理工学研究科）
　　坂元君年（農学生命科学部）
　　澤田祐子（学生課）
　　粕谷常好（学生課）
印　刷　青森コロニー印刷

学園だよりに関するご意見がございましたら、下記のアドレスまでお寄せ願います。
弘前大学学務部学生課　e-mail:jm3113@hirosaki-u.ac.jp